



物語「日本語を話す会」ーシンガポール日本人会の宝石箱ー二の巻

地域社会交流部 日本語を話す会

二の巻のはじめに

マネジメント論の父 ピーター・ドラッカーは現代社会における非営利組織の重要性を喝破し、その運営については営利組織以上にマネジメント(経営)が重要であることを強調しました。そしてあらゆる組織にとって常に自問すべき5つの問いとして「われわれのミッションは何か?」「われわれの顧客は誰か?」「顧客にとっての価値は何か?」「われわれにとっての成果は何か?」「われわれの計画は何か?」を挙げています。

「日本語を話す会」は地域社会交流部会直属のボランティア活動で、来年30周年を迎える非営利組織です。営利組織の場合はなんだかんだ言っても利益を出すことが主な目標であるのに対し、非営利組織は損益というコンセプトがないだけに、組織参加者が常に5つの質問を共有することが大事だと考えられます。

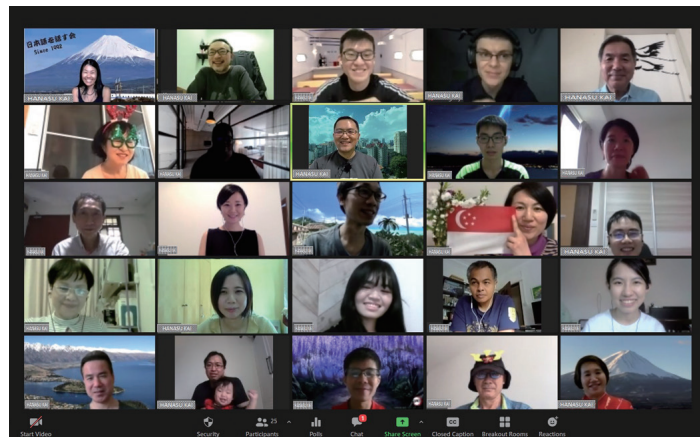
4月号南十字星掲載の一の巻では「日本語を話す会」設立の歴史と時代背景を辿り、新型コロナウイルス(COVID-19)のパンデミックで大きく変容した最近の活動状況までご紹介させて頂きました。二の巻では、来年2022年に30周年という大きな節目を迎えることを契機として、ドラッカーの5つの問いに対する答えを考察することを通じて会の活動の今を見つめ、50周年を迎える2042年に向けてのビジョンを構想したいと思います。

「他人と過去は変えられないが、自分と未来は変えられる」と言ったのはカナダ出身の精神科医エリック・バーンです。今までの素晴らしい歴史に学び、次の20年の時代認識に想像力を働かせる営みを通じて、ありがたい未来を描くことが出来ればと考えています。

「われわれのミッションは何か?」

1992年2月に「日本語を話す会」が発足した時の目的は「日本語学習者に対してネイティブ日本語話者との会話の機会を提供すること」でした。その背景には前年の1991年に発足した地域社会交流部会の「日本とシンガポール社会との友好親善と相互理解のための交流を促進する」という活動目的がありました。これを併せると「日本語学習者に対してネイティブ日本語話者との会話の機会を提供することを通じて、日本とシンガポール社会との友好親善と相互理解のための交流を促進すること」というミッション・ステートメントになります。このミッションについては、現在も基本的に変わっていないと思います。

一方でこの30年でシンガポールと日本を取り巻く環境は大きく変わりました。世界で進展したグローバリゼーションとデジタル革命は、その対応に遅れた日本が世界経済に占める割合の大幅な低下(15.3%から5.8%)を余儀なくされ、豊かさの指標である一人当たりGDPでも日本の世界順位は4位から25位に下降しました。一方、シンガポールの一人当たりGDPは同24位から8位に大きく浮上し、絶対額でも日本の半分から日本の1.6倍になりました。また1992年当時、経済規模が日本の1割強に過ぎなかった中国は日本の3倍近くまで経済力を急拡大し、二度の世界大戦後のパクス・アメリカーナから1989年のソ連崩壊による冷戦終了を経て、その後一強状態を続けていた米国に対して、公然たる挑戦者として勃興してきています。



ZOOMでの活動の様子

イスラエルの歴史学者ユヴァル・ノア・ハラリは、情報通信技術や人工知能(AI)の幾何級数的な進化を中心とするデジタル革命が人類社会に及ぼす変化は、想像を絶するものになると予告しています。そしてこの革命的な変化は、8万年前にネアンデルタールに対するサピエンスの優位性を決める要因となった認知革命、1万年前に人類に階級社会を産んだ農業革命、人類に未曾有の成長と欧米優位をもたらした18世紀後半の産業革命をひさぐ革命になると予想しています。

日本語を話す会が50周年を迎える2042年は、人工知能の世界的権威であるレイモンド・カーツワイルが人工知能が人間知能を広範に凌駕するシンギュラリティ(技術的特異点)が起きる年として予言した2045年の間近です。新型コロナウイルスによりこのような変化が加速し、シンギュラリティの到来が前倒しになるという意見も多く聞かれます。

このように大きく変わる世界の中で「日本語学習者と日本語ネイティブ話者による会話を通じた友好親善と相互理解のための交流促進」というミッションは、どのような新しい意味をもつのかについて考えてみたいと思います。

「われわれの顧客は誰か?」「顧客にとっての価値は何か?」

ここまで読まれて何か小難しそうなことを言っているの、日本語を話す会が小難しいつまらない会ではないかと感じた方、それは誤解です。毎回のおしゃべりは楽しく刺激的で、さまざまな行事や課外活動により顧客である参加者の交流が深まっています。

さてドラッカー組織論の5つの問いに戻ります。「日本語を話す会」の顧客(満足させるべき相手)は言うまでもなく日本語学習者であり、ネイティブ日本語話者です。ネイティブ日本語話者を日本人ボランティアと呼ぶこともあります。両者の関係は奉仕する側と奉仕される側、教える側と教えられる側という一般的な理解とはかなり異なります。

（日本語学習者）

日本語学習者から有志を募り、改めて日本語学習を始めたきっかけと今も学習を続けている理由を聞いてみました。先ず思わず感動してしまった回答がありましたので、少し長くなりますが以下に引用します。（以下の引用は日本語話者による原文のままです）

『日本語を勉強し始めたのは中学1年生の時です。きっかけはネットサーフィン中に見かけた「ニコニコ生放送」の配信番組でした。2012年当時はまだリアルタイムの動画配信サイトが珍しかったため、リアルタイムの交流が新鮮で夢中になりました。グーグル翻訳などを使いながら配信者らと日本語で交流していたら、気づいたときには、日本語がどんどん上達し、生放送を自ら配信できるようになっていました。日本語学習を継続している理由はすごく単純で、「日本語を喋っている時の自分が好きだから」です。私は話す言葉によって性格が変わると感じており、日本語に囲まれ、日本語を喋っている時の自分が一番好きなんです。』（彼女が「日本語を話す会」に参加したのはシンガポールのJC2年生の時、現在は日本の大学に在学中）

『大学時代に日本語は選択科目の中で人気があり、子供の頃から日本の漫画が好きなので、日本語を勉強し始めました。日本語学習を継続している理由は、単に日本語が好きだからです。日本語は思いやりを込める美しい言語だと思います。』（社会人女性）

『数年前、日本への旅行がきっかけで日本語学習を始めました。日本の文化や景色に魅せられ、日本語を使いこなせるまで、勉学に励んでいます。いつか仕事に活かせるよう、日本語学習を続けていこうと思っています。』（社会人男性）

「日本語を話す会」に参加している日本語学習者にとっての価値は、日本人ボランティアとの会話による日本語力のブラッシュアップに留まりません。日本語という言語のもつ優雅さや思いやり、その背景にある日本文化、歴史、美しい景色などに対する理解を深めることがより大きな価値（顧客価値）と言えそうです。勿論、日本語能力が向上すればそのようなことに対する理解がさらに深まり、理解が深まれば日本語能力を向上させたいという意欲が一段と高まる、という好循環が生まれます。

因みに最初の引用者は並の日本人より完成度の高い日本語を話しますが、彼女の日本語学習は、シンガポールで一般的な教育省語学センター（PSLEで上位10%に入ることが条件）や大学の選択科目としての日本語授業というエリートコースではなく、動画配信サイトを使ったリアルタイム交流という独学でした。AIの進化により語学学習のアプローチも大きく変わると予想されますが、「日本語を話す会」の日本語学習者同士で、日本語学習についての色々な工夫などを教え合うことが出来れば、顧客価値はさらに高まるでしょう。

（ネイティブ日本語話者/日本人ボランティア）

ボランティアという言葉からは自己犠牲による一方的奉仕が想起されがちですが、「情けは人の為ならず」であり「利他」と「自利（自愛）」のバランスが重要であることは仏教の教えを待つまでもありません。

「日本語を話す会」に参加している日本人ボランティアは、日本人駐在員及びご家族（奥様やご子息）、日本人永住者、Zoom会では日本に帰国したり他の国に在住したり日本人ボランティアOB/OGなどです。以前は日本人駐在員の奥様の割合が多かった印象がありますが、最近は男性駐在員の参加も増えています。日本人ボランティアの参加理由としては、『駐在でシンガポールに来たものの仕事や子供の教育関係以外にシンガポール人と交流する機会が少なく、シンガポールのことを学んだり体験したりすることができない。「日本語を話す会」に参加すればシンガポール人との交流と、ネイティブ日本語話者として日本語学習者への貢献ができる。』という方が多いと思います。

日本人ボランティアにとっては日本語学習者との会話を通じて、シンガポールの草の根情報（どこのローカルフードが安くて美味しいとかイチオシお勧めスポットなど）を教えてもらったり、シンガポールの生活風習や考え方を知るといった学習が価値（顧客価値）だと考えられます。またここでも日本語学習者の日本語能力が向上すれば、より質の高いローカル情報を日本人ボランティアが学習できるという好循環が生まれます。

「日本語を話す会」は語学学校（School）ではなく、従って教科書がないことは、30年前の発足時から変わっていません。参加する日本語学習者と日本人ボランティアはお互いに学習者であり、たんなる余暇ではなく精神活動や自己充実にあてることができる積極的な意味をもった時間を共有するという意味で、古代ギリシャ語のスクーレーまたはスクーレ（schoolの語源）に近いのではないのでしょうか。

「われわれにとっての成果は何か？」

「日本語を話す会」が顧客（日本語学習者と日本人ボランティア）価値を満たしてミッション達成に向かっているかどうか、その成果はどのように測ればよいのでしょうか。定量的な成果としては参加者数の増減があります。日本語学習者と日本人ボランティアの双方が学習による価値を実現していれば、新しい参加者と従来の参加者が共に継続的に参加する割合が増え、参加者数が自然と増加することになります。

ここで日本語学習者に現在の「日本語を話す会」の魅力（良いところ）と改善点（どうすればさらに良くなるか）を聞いてみました。魅力としては「文化や背景の異なる参加者が出会い日本語で交流できること、そして友達になれること」に集約できるように思いました。改善点としては「日本やシンガポールに関するトピックに留まらず、その他の国の文化などについて話す。また課外活動をもっと増やし交流を一段と深める。日本人会の場所が不便なので、他の場所で分科会を開催する。」というような指摘がありました。

ロシアのウラル山脈中部の東側（アジア側）に位置しロシア第四の都市エカテリンブルク出身の日本語学習者（今をときめく某IT企業の若手ソフトウェアエンジニア）は『日本語を話す会は日本人が沢山いることが素晴らしい。エカテリンブルクで英語を話す会に参加していたが、参加者はロシア人ばかりでネイティブ英語スピーカーが一人もいないことが多かった。』と言っていました。なるほど。

結局、成果の尺度としては参加者数を基本としつつ、お互いの興味や学習意欲を満たし高め合い質的向上を目指すことになるのではないのでしょうか。質的向上が参加者数増加に繋がることは言うまでもありません。1992年5月に新聞報道に端を発する参加希望者の急増を受けて、日本語を話す会は日本語学習者400人（加えてウェーティング200人）ボランティア50人で組織的なスタートを切りました。現在の参加者は新型コロナウイルスによる制約もあり、日本語学習者と日本人ボランティア合わせてのべ毎月100人程度です。過去のピークである参加者450人を意識しつつ参加者人数（日本語学習者+日本人ボランティア）の目標を考えることは、思考実験として面白いように考えます。



納会の様子(2017年)

「われわれの計画は何か？」

今まで「ミッション(目標)は何か?」「顧客は誰か?」「顧客にとっての価値は何か?」「(計測できる)成果は何か?」と考察してきました。最後に顧客価値の向上をもたらす成果を上げるための具体的な計画について、考えてみたいと思います。今「日本語を話す会」では来年の30周年に向けて、皆がさまざまなアイデアを出し合い盛り上がっています。アイデアは具体的な計画に落とし込まなければ実現しません。

複数の人が集まって何かを行う(成し遂げようとする)際に3つのPが重要だと言われます。Purpose (目標の共有化)、Passion(情熱)、Play(遊びや楽しみ)です。とりわけ楽しくないと情熱も長続きしないし、せっかく共有した目標も達成できません。またドラッカーはリーダーシップの重要性を強調しつつも『リーダーは一人ではない。リーダーシップは全員が共有すべきものである。』と述べています。

現状、会には5人の素敵な世話役(日本人ボランティア)と3人の素敵なアドバイザー(日本語学習者)がいて運営や管理などを担っています。30周年記念企画や各種行事などについては、こんなことをやりたいと発案した参加者を中心として、企画や行事毎に実行委員会をつくり、楽しく計画し実行するアプローチを検討しています。こうすればリーダーシップを参加者全員が共有することになります。

(30周年でやりたいことの紹介)

参加者からは、30周年は30年に一度しかないので盛大にお祝いしたいとの声があがっています。期待と想像は膨らむばかりですが、以下、ある程度分類して紹介させていただきます。

1、30周年記念制作

- ー30周年記念Tシャツと「日本語を話す会」ロゴマーク
- ーバティックで30周年記念横断幕
- ー今回の南十字星記事(日本語と英語)と会の活動写真などを載せた小冊子
- ー30周年記念制作物や記念行事の写真やビデオを入れたタイムカプセル

2、30周年記念行事

- ー参加者が着物を着てビュッフェスタイルのパーティー(日本食とローカルフードの共演、30周年記念ケーキ)、グループでの発表会(日本語で)
- ー日本人学校訪問(一日先生としてシンガポールの文化や習慣、日常生活を紹介)
- ーローカルフードのアメージングレース(参加者が与えられたヒントでシンガポールの有名ローカルフード店を探す競争)

3、30周年をきっかけとして始める未来志向の活動

- ーI-Sports (Intellectual Sports)大会、具体的には日本式麻雀大会など
- ーASEAN 日本語を話す会の開催:Zoom話す会形式で国を跨ぐ交流と文化の幅を広げること、ASEAN各国日本人会やJUGASなどと連携

いかがでしょうか、楽しそうですね。そう思ったあなた、シンガポール日本人会の宝石箱「日本語を話す会」の仲間になり、一緒に楽しみましょう。

最後に 一日本語の秘めた可能性と日本の希望一

日本語は美しく柔軟で優しさと強さをもつ言語だと思います。ひらがなは女性言葉として始まりましたが、たおやかさに加え日本語学習者に対して優しい出会いを提供します。カタカナは無数の外国由来のものや翻訳ににくい概念を外来語として取り込む威力に



修了証を手に記念撮影(2017年納会にて)

加え、日本語に特有のオノマトペは漫画やアニメの表現力を強化します。漢文の読み下しは中国語を日本語に転換する天才的発明です。

明治以降にいち早く西洋文明を取り入れた日本は、自然科学や社会科学の概念を漢字で取り込みました。哲学(philosophy)、科学(science)、社会(society)などその数は数万語に及ぶと言われています。康有为、孫文、蒋介石などの留学生がそれらを中国に持ち帰り、そのまま現代中国語となりました。毛沢東が1949年に新中国の国名を「中華人民共和国」とした際に、「人民(people)」も「共和国(republic)」も日本製で中国由来の単語は「中華」だけであることに気づき、一瞬躊躇したという話が実しやかに伝えられていますが、恐らく都市伝説の類でしょう。

昔、北海道に家族旅行で渡った時、当時幼稚園児の息子が「パパ、どうして(海を渡ったのに、つまり彼にとっては海外に来了)みんな日本語を話してるの」と質問してきました。当時彼は人の区分を何語を話しているかで認識しており「ママは英語人」「ゴンゴン(チャイニーズ人)」「パパは日本語人」と呼んでいました。なんとという洞察力。残念ながら彼の洞察力はその頃がピークだったようですが、「日本語人」という概念が大きな示唆に富むことは変わりません。少子高齢化により「日本人」の人口減は避けられませんが、「日本語人」は増やすことが出来るからです。

『日本語を喋っている時の自分が好き』まで達しなくても『日本語は思いやりを込める(ことの出来る)美しい言語』を共感する「日本語人」が増えること、そしてその「日本語」を話す会の輪を広げることが、米中対立、新冷戦と難しさを増す世界で一筋の光明になるかもしれません。50周年を迎える20年後はどう変わっているかという質問に対し、『若者を中心に「日本語を話す会」は増え、日本にもっと多くの外国人が住むようになり、日本の国際化がもっと進み国際交流が一段と活発になっている。』と答えてくれました。ありがたい未来の一つのモデルではないでしょうか。日本語は日本のソフトパワーの核心だと思います。

文責:地域社会交流部 日本語を話す会 吉村一男

写真:日本語を話す会



「日本語を話す会」ではボランティアをしてくださる方を随時募集しています。日本人とローカルの方々の国際文化交流と一緒に楽しみませんか?

連絡先: 日本語を話す会

Email: nihongo_hanasukai@live.jp



クラスルームで行われる活動の様子(2021年)



お好み焼き作り(2019年お料理の会)



ゲームを楽しむ様子(2017年納会)

日本語を話す会

連絡先	日本語を話す会 nihongo_hanasukai@live.jp
活動日・場所	毎月第1土曜日: 14:00~15:50 日本人会3階 クラスルーム5他(事前予約制) 毎月第2、4土曜日: 14:00~16:00 ZOOMオンライン(事前予約制)
部費	通常活動の参加費は日本人、ローカル共に原則無料です。
部員数	日本人ボランティア 約40名、ローカル 約70名(2021年3月現在)
活動内容	日本語学習者と日本語を母国語とするボランティアが少人数のグループに分かれて、自由に日本語での会話(おしゃべり)を楽しむという活動を行っています。日本人とローカルの方々の国際文化交流を目的としています。通常活動として、日本人会クラスルームでの対面活動とZOOMを使ったオンライン活動を実施しています。 ※2019年まで日本語会話を楽しむ通常活動に加えて、1分間スピーチや調理実習、チンゲイパレードへの参加などイベントも開催していましたが、現在イベント活動は休止しています。
紹介	「日本語を話す会」では、ボランティアとして活動に参加して下さる方を随時募集しています。日本人会会員でなくとも、原則高校生以上であればどなたでも参加が可能です。資格は必要ありません。短期滞在の方(6か月以上)も歓迎しています。日本語学習の経験がある方達と日本語で会話を楽しむ会ですので、必ずしも英語は必要ではありません。ご興味のある方は、ぜひ話す会の連絡先までメールにてご連絡ください。

Japanese Speaking Corner

Contact	Japanese speaking corner : nihongo_hanasukai@live.jp (for native Japanese) nihongo_hanasukai_local@outlook.sg (local participants)
Time & Venue	Physical session at the Japanese association of Singapore. Every first Saturday of the month at the Japanese association of Singapore from 14:00 to 15:50. Our reception will be in classroom 5 at the 3rd floor. (Registration required) Online sessions via ZOOM Every second and fourth Saturday of the month from 14:00 to 16:00. (Registration required)
Fees	Free of charge for both Japanese and local participants
Volunteers & participants	About 40 Japanese volunteers and 70 over local participants(as of March 2021)
Activities	Japanese learners and native Japanese speakers will be allocated into small groups where they will enjoy a session of free topic speaking in Japanese. We aim to bridge and improve international culture exchange between the Japanese and the local community. As regular activities, we hold our physical sessions at the Japanese association's classrooms and our online sessions via ZOOM application Until 2019, in addition to our regular activities, we also held and participated in events like the 1 min speech, Cooking sessions, Chingay parade and so on and so forth. At present, due to the Covid-19 situation, events are suspended indefinitely.
Introduction	In the Japanese speaking corner, we welcome anyone who wishes to hone and practice their Japanese speaking skills and at the same time getting to know more new people with the same interest! As there is no minimum fluency required, you can practice your Japanese speaking at your own pace. But do be aware that we only provide the environment for you to practice your Japanese and we do not teach from beginner level as our Japanese volunteers are not certified teachers. The only requirement you need to join us is that you need to have at least basic knowledge of Japanese like for example, self introduction, talking about hobbies, music, culture and sub culture and so on and so forth. If you are keen to join us do drop us a mail!